平和と共生を求めて～コシャマイン慰霊祭～

7月4日（土）に夷王山周辺において、コシャマイン慰霊祭実行委員会主催のもと、コシャマイン慰霊祭が開催されました。

この慰霊祭は、松前藩の歴史書『新羅之記録（シンラノキロク）』に記された、アイヌと和人の初めての大きな戦いで亡くなった首長コシャマインをアイヌや和人といった隔たり無く弔うものです。

祭壇（左後方）へ祈りを捧げ、火のカムイへ供物と祈りを捧げます

祈りを捧げた供物（お酒）をトゥキ（杯）でいただきます

慰霊祭は、1993年に国連の『世界の先住民族の国際年』と宣言されたことをきっかけに、夷王山でアイヌ式の儀式（慰霊）によって、コシャマインの霊を慰め、北海道の地で共生していこうとはじめられました。

儀式は、はじめに祭壇にあるイナウ（木で出来た、カムイの代わりの木幣）に祈りを捧げます。

次に死後の世界とこの世の世界を結ぶ、火のカムイ（神様に近い意味）へイクパスイを使って祈りを捧げ、この世の弔いの言葉や供物をあの世へ届けてもらいます。

自分の先祖へも祈りを捧げます

最後に、自分の先祖に対して、自分の言葉や供物（半分は、自分の口に含み、半分は先祖へ捧げる）を火のカムイに届けてもらいます。

これまで、対立構造ばかりが注目されていましたが、上ノ国町での発掘調査の結果では、アイヌと和人が勝山館で、共に生活していたことがわかっています。

アイヌの方々との共生の歴史は、勝山館跡ほか各文化財施設において見学することができます。興味のある方は、是非お越しください。

JR東日本の車内紙に上ノ国町が紹介される。

JR東日本が発行する東日本の歴史・文化を紹介する新幹線車内紙「トランヴェール」（8月号）に上ノ国町が紹介されました。内容は、白老町のウポポイの開業（7月12日）に合わせたアイヌの特集記事の中で、当町のアイヌと和人が共生した歴史・文化が遺跡の出土品と共に紹介されています。

「トランヴェール」は、新幹線「はやぶさ」の座席ポケットに設置されていますので、新幹線にご乗車の際には是非お手に取ってご覧下さい。

また、特集記事はJR東日本のホームページからも閲覧することができます。